

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名 共に考えるために伝えよう みんなで生きる町

2 指導観

○ 本学級の児童の実態

本学級の児童は、これまでに1学期の「相手や目的に合わせて書こう ガイドブックを作ろう」の学習で、自分の運動会を見に来てくれる人に6年生の「種目ガイドブック」をつくるという活動を通して、相手意識や目的意識を確かにもって書くことを経験してきている。その中で、読む人のために必要な要素と読み手が引きつけられるような効果的な書き方を考えて書くことも徐々に意識されつつある。書く必要のある事柄を整理し、構成や内容を考えて書くことの重要性にも気付いてきている。

しかしながら、読み手を揺り動かすほどの強い相手意識や目的意識をもって、一貫した論旨のもと、自分の考えを明確に打ち出した文章を書いた経験はなく、文種も生活作文のみで広がりがなく実態がある。

児童の書くことに関する実態を把握するために、調査を行った結果、次のような結果が得られた。

- | | |
|---|--|
| 1 | 国語の学習の中で好きなものに○をつけてください。(複数回答) |
| | 話す・聞く学習…11人 書く学習…15人 読む学習…19人 |
| 2 | あなたは文章を書くことが好きですか。いずれかに○をつけてください。 |
| | 好き…7人 どちらかというが好き…12人 どちらかというと嫌い…13人 嫌い…4人 |
| | ・「好き」「どちらかというが好き」と答えた人は、その理由を教えてください。(複数回答) |
| | ①書くことで自分の考えがまとまるから …8人 |
| | ②書くことで自分の考えを他者に伝えることができるから…12人 |
| | ③書くことで記録としてとっておくことができるから …8人 |
| | ④その他 …書くことで力がつくから |
| | ・「嫌い」「どちらかという嫌い」と答えた人は、その理由を教えてください。(複数回答) |
| | ①何のために書くのか分からないから …0人 |
| | ②何を書いたらよいのか分からないから …7人 |
| | ③どのように書いたらよいのか分からないから …13人 |
| | ④その他 …0人 |
| 3 | あなたは文章を書くときに、どんなことに気をつけていますか。(複数回答) |
| | ①何のために書くのか意識して書くこと …9人 |
| | ②書きたい事柄の中から、必要なことだけを選んで書くこと …16人 |
| | ③文章の組立てをよく考えて書くこと …13人 |
| | ④見たこと・起こったことと感想・意見を分けて書くこと …15人 |
| | ⑤詳しく書くところと簡単に書くところをよく考えて書くこと…14人 |
| | ⑥書いている途中や書いた後に読み直して、よりよい言葉を選んだり、
文章表現を考えたりすること …13人 |
| | ⑦その他 …0人 |

実態調査の結果から、やはり、何をどのように書いたらよいのか分からず、書くことに抵抗を感じている児童が半数以上いることが分かった。また、「何のために書くのか意識して書くこと」の数値が他に比べて低く、児童の意識付けが十分でないことが読みとれた。これは文章を書く際

に、目的意識や相手意識を明確にしないまま指導が行われていることの現れであるといえる。

○ 本教材の価値

本単元「共に考えるために伝えよう みんなで生きる町」は、自分の身の回りのものを様々な観点から見直し、不便なところや不備なところに対して解決策を見つけ、確かな相手意識や目的意識をもって「生活改善提案」の文章を書き、それを実行していくことで、よりよい社会を築いていこうとするものである。

ここでは、まず早い段階で、モデル文を提示し、そこから意見（提案）の部分、事実（提案理由）の部分、違う立場からの意見の部分、さらに強化された自分の意見の部分を見つけ、それぞれどのような書き方になっているかとらえさせる指導を行う。このことは、自分の考えを述べていく文章を書いた経験が少ない児童にとって、文章のイメージをもたせることにつながると考える。また、実際にあるテーマについて意見の部分、事実の部分、違う立場からの意見の部分、さらに強化された自分の意見の部分を書く練習を行う。

次に、意見・事実のどこからどのように書くか、例（モデル文）を示したり、モデル文を自分で書き換えたりする練習を通して様々な書き出しがあることに気付かせる指導も行う。自分の身の回りから問題点を見つけ、どのように改善すべきか考えるところでは、自分の考えを確かにさせたり、多方面からの見方を取り入れたりするために、意見交流の機会を設けるようにする。

このように、自分の考えを明確にする指導と自分の考えがよく伝わるように書き表す指導を組み合わせることで、論旨のはっきりした文章を書くことができるようにしたい。

あと半年あまりで卒業という6年生のこの時期に、より充実した卒業までの日々を過ごせるように、これまで慣れ親しんだ学校や学級について改めて見つめ直し、自分たちの生活を改善する手立てを考えることは、自分たちの働きかけによって、よりよい社会が実現する可能性があることを実感させる上でも大変意義深いと考える。

○ 自らの考えを明確にして書き表す力を育てるための指導のあり方

指導に当たっては、次のような支援や手立てを取り入れていく。

<導入段階>

初めに、単元名、教材名、冒頭から「みんなで生きる町」の意味について考え、学習の構えをもたせる。そのとき、教材名「みんなで生きる町」の“で”を“の”や“が”に置き換えて比べてみることで、みんなで協力して自分たちを取り巻く社会について考える学習なのだということをつかませる。次に、冒頭を読んで、身の回りの自分を取り巻くもの・ひと・ことをもっとよりよくしていくために、みんなで考えを伝え合うという学習の構えをつくり、自分を取り巻くもの・ひと・ことについて、もっと改善すべき所はないか話し合う。その際に、「自分は今の学校・学級生活に満足できているだろうか。」と投げかけ、自分を取り巻くもの（教室、学校の遊具、運動場）・ひと（友達・下級生）・こと（行事・生活時間）といった観点を提示し、改善点を探すようにする。さらに、卒業までの残りの日々をより満足いくものにするには、どこをどう改善すべきか考えさせる。

その後、自分の考えを述べていく文章を書いた経験が少ない児童の実態を考慮して、どのようにして自分の考えを述べていく文章を書いていけばよいか理解させるための練習を取り入れていく。

練習の一つとして、意見と事実を書き分け、より説得力のある文章にするために内容を充実させる練習を仕組んでいく。自分の考えを述べていく文章のモデルを提示し、そこから意見の部分、事実の部分、違う立場からの意見の部分、さらに強化された自分の意見の部分を見つけ、それぞれどのような書き方になっているかとらえさせる。また、意見と事実のつながりにも着目させ、つながりの重要性にも目を向けさせていく。モデル文から学んだことを定着させるために、実際

にあるテーマについて、意見の部分、事実の部分、違う立場からの意見の部分、さらに強化された自分の意見の部分の考えて書く練習も設ける。

練習の二つ目として、意見の部分、事実の部分、違う立場からの意見の部分のどこから書き出すか考える練習を仕組んでいく。意見・事実のどこからどのように書くか、例（モデル文）を示したり、モデル文を自分で書き換えたりする練習を通して、書き出す場所によってそれぞれに適した効果的な書き出し方があることも気付かせる。これは別時間に設け、実際に文章を書くときに役立てていくようにする。

<自らの考えを明確にする段階>

自分の考えを述べていく文章の書き方を学んだ後、自分の意見・事実という観点で自分の考えを表に整理する。そして、自分とは違う考えの友達を納得させるような内容になっているかどうかという視点で見直しをさせる。手立てとしては、事前にクラス全員分の学習プリントを簡単にまとめたものを作成し、それを見ながら意見を裏付けるための事実が書かれているか、全体を見て友達の「生活改善提案」について納得がいくかといった観点ごとに、色分けした付箋を貼っていくことで、違う考えの友達と交流していくようにする。

交流後、友達からの付箋に書いてある内容を見て、自分の考えを書いた表を整理し、どこから書き出すかも考えさせておく。

<書き表す段階>

「生活改善提案」を文章化する段階では、導入段階で学んだ書き方を振り返り、自分の考えを文章にまとめるようにする。

事前の練習で学んだことは、模造紙にまとめておき、「生活改善提案」を書く活動に入るときに、それを見て活用することができるようにする。

<推敲段階>

書いたものを読み返し、推敲する段階では、チェックプリントを用意し、事実と意見が合っているか、書き出しの工夫、文末表現の書き分け、友達の考えに納得がいくかといった観点ごとにお互いの文章を読み合い、見直していけるようにする。必要があれば、さらに手を加え、よりよいものにしていく。

<まとめの段階>

クラスみんなが書いた「生活改善提案書」を読み合い、実行するものを決める。友達の提案書の内容を聞いての感想や実行してみたの感想などを記録して、日々の振り返りとしていく。

3 単元目標

- 自分を取り巻くもの・ひと・ことについてもっと改善すべき所を見つけ、目的意識・相手意識をもって自分の考えを文章にまとめ、生活改善提案をしようとする。
- 自分の立場を明らかにして、事実と意見を書き分けたり、効果的な構成を考えたりして、自分の考えを文章にまとめることができる。
- 観点にしたがって、自分の文章を見直すことができる。

4 学習計画（全9時間 読む…1時間 書く…8時間）

		学習活動と内容	教師の支援 ※考えを明確にして書き表すための支援
一	1	1 単元名，教材名，冒頭から，「みんなで生きる町」の意味について考え，学習の構えをもつ。	○ 教材名「みんなで生きる町」の“で”を“の”や“が”に置き換えて比べてみることで，みんなで協力して自分たちを取り巻く社会について考える学習なのだということをつかませる。 さらに，冒頭を読んで，身の回りの

		<p>自分を取り巻くことをもっとよりよくしていくために、みんなで考えを伝え合うという学習の構えをもたせる。</p> <p>○ どのような形で考えを伝え合ったらよいか考えさせ、後々まで残していくこと、説得力のあるものにしなければならないことなどから、自分の考えを書いて、文章にまとめることを確認していく。</p>
<p>＝ 単元のめあて ＝</p>		
<p>自分をとりまくさまざまなことについて、もっとよりよくしていくにはどうしたらいいか考え、それを文章にまとめて、生活改善提案をしよう。</p>		
<p>1</p>	<p>2 教材文を読み、学習の見通しをもつ。 (1) 教科書の単元構成に目を通し、学習の流れをつかむ。</p> <p>3 自分たちの生活を見直して、題材について話し合う。 もの…教室、遊具、運動場 ひと…友達、下級生 こと…行事、生活時間 など</p> <p><例></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教室前の広い廊下が十分に活用されていないので、そこに学習コーナーをつくろう。 ○ 卒業までの残りの日々、もっとクラスみんながつながり合えるようなイベントを考えたい。 ○ 登校してから朝の会までの時間をダラダラ過ごしていて、無駄にしていないか。みんなでボランティア活動に取り組んでみてはどうか。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 教科書にあるような公共施設にとらわれずに、自分を取り巻くもの・ひと・ことについて、もっと改善すべき所はないか話し合い、考えを書きまとめていく学習であることを確認する。</p> <p>○ 「自分は今の学校・学級生活に満足できているだろうか。」と投げかけ、改善点を探すようにする。</p> <p>○ なかなか改善点が思い浮かばないときは、自分を取り巻くもの・ひと・ことという観点を与える。 さらに、卒業までの残りの日々をより満足いくものにするには、どこをどう改善すべきか考えさせる。</p>
<p>二</p>	<p>1 1 「生活改善提案」の文章をどのように書けばよいか理解する。 (1) 意見と事実とを書き分け、説得力のある文章にするために内容を充実させる練習をする。</p>	<p>※ 自分の考えを述べていく文章の書き方を理解させるため、練習を行う。</p> <p style="text-align: center;">＝ 練習 ＝</p> <p><意見と事実とを書き分け、説得力のある文章にするために内容を充実させる練習></p> <p>モデル文を提示し、そこから自分の</p>

			<p>意見の部分, 事実の部分, 違う立場からの意見の部分, 強化された自分の意見の部分を見つけ, それぞれどのような書き方になっているかとらえさせる。</p> <p>また, 意見と事実のつながりにも着目させ, つながりの重要性にも目を向けさせる。</p> <p>モデル文から学んだことを定着させるために, 実際にあるテーマで意見, 事実, 違う立場からの意見, 強化された自分の意見を考えて書いてみる。</p>					
三	1	<p>1 自分が選んだ題材について, 「生活改善提案」に対する考えを整理する。</p> <p>(1) 自分の考えを表に書く。</p>	<p>※ 自分の意見・事実という観点で自分の考えを整理する。</p> <table border="1" data-bbox="895 797 1414 1162"> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">付け加え修正</td> <td style="text-align: center;">事実</td> <td style="text-align: center;">意見</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">友達から</td> </tr> </table>	付け加え修正	事実	意見		友達から
付け加え修正	事実	意見						
		友達から						
	1	<p>2 違う考えの友達に表を見てもらい, 次の点について検討し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見を裏付けるための事実となっているか。 ・ 全体を見て, 友達の「生活改善提案」について納得いくか。 <p>3 友達からの付箋に書いてある内容を見て, 自分の考えに付加・修正する。</p>	<p>※ 自分とは違う考えの友達を納得させるような内容になっているかどうかという視点で見直しをさせる。</p> <p>※ 事前にクラス全員分の学習プリントを簡単にまとめたものを作成し, それをもとに付箋に書く内容を検討させる。</p> <p>※ 1対1の組み合わせでは, 友達の考えについて検討することが困難である場合もあるので, それぞれの学習プリントを掲示しておき, 観点に従って色分けした付箋を貼っていくことで, 違う考えの友達と交流していくようにする。</p> <p>※ 整理した表をもとに, どこから書き出すかも考えさせておく。</p>					
四	2	<p>1 「生活改善提案」を文章化する。</p> <p>(1) これまでに学んだ書き方を振り返り, 自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書き出しの工夫 	<p>※ 練習で学んだことを模造紙にまとめ, 掲示しておく。</p>					

		どこから、どう書き出すのか ・ 文末表現を工夫し、意見と事実を分けて書く。	
五	1	1 書いたものを読み返し、推敲する。 ・ 事実と意見が合っているか。 ・ 書き出しの工夫 ・ 文末表現の書き分け ・ 友達の考えに納得いくか。 (よく伝わるか)	○ チェックプリントを用意し、観点ごとに友達の文章を読み合い、見直していけるようにする。 ○ 必要なあれば、さらに手を加えていく。
六	1	1 自分が書いたものをクラスみんなに伝え、実行する「生活改善提案」を決める。	○ 書いたものを簡単に説明しながら、クラスの中で実行に移す「生活改善提案」を決めていく。 ○ 友達の提案書の内容を聞いての感想や実行してみたの感想などを記録して、日々の振り返りとする。

5 本時

平成17年10月24日(月)

6 本時の目標

- モデル文を提示し、そこから意見の部分、事実の部分、違う立場からの意見の部分、さらに強化された自分の意見の部分を見つけ、それぞれどのような書き方になっているかをとらえることができる。
- モデル文から学んだことを定着させるために、実際にあるテーマに基づく文章を書く練習を通して、文末表現を工夫し、意見と事実とを書き分け、説得力のある文章にするために内容を充実させることができるようにする。

7 本時指導の考え方

これまでに、児童は単元名、教材文、冒頭から身の回りの自分を取り巻くもの・ひと・ことをもっとよりよくしていくために、みんなで考えを伝え合うという学習の構えをつくっている。

本時は、自分の考えを述べていく文章のモデル文を提示し、そこから意見の部分、事実の部分、違う立場からの意見の部分、さらに強化された自分の意見の部分を見つけ、それぞれどのような書き方になっているかをとらえ、さらにモデル文から学んだことを定着させるために、実際にあるテーマについて考えを整理して書く練習を通して、意見と事実とを書き分け、説得力のある文章にするために内容を充実させることができるようにするところである。

まず初めに、自分の考えを述べているモデルの文章を二つ提示する。一つは自分の考え(提案)と簡単な事実(提案理由)のみが書かれているもの、もう一つは自分の考えと違う立場からの考えも含めて多面的に事象をとらえて書かれているものである。一つ目のモデル文からは意見が書かれてある部分・事実が書かれてある部分を見つけ、文末表現の違いに着目させていき、さらに、二つ目のモデル文と比較することで、自分の考えを提案するよりよい文章とは、独りよがりな考えではなく、様々な角度から事象をとらえ、それらについて考えを述べたものであることに気付かせていく。

次に、ある考えを提示し、それに理由となる事実や違う立場からの意見、さらに強化された自分の意見を考えて書く練習をする。このことで、次時に自分の題材を決めたときに、どのような思考過程

5 本時のまとめをし，次時の活動を確認する。

化させて述べていくようにすることを確認した後，実際にそれらの内容について考えて書く活動に入るようにする。

※ 書いたものをプロジェクターで写し出し，友達の書いた文章のよさを全体で確かめることができるようにする。

○ 本時に学習したことを，「共に考えるために伝えよう みんなで生きる町」の単元で『生活改善提案』を文章化するときを活用していくことを知らせる。